



編集・発行 山見妙勢能報部
日蓮宗 能勢部
〒563-0132
大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

お目出度うございます

日慧

「何でお正月にはお目出度うっていうんだろう」

何年か前ですが、初詣に連れられて来た子供が二人で話していました。

「御誕生日でもないし、別に お目出度くないのにね」

なるほど、なぜお目出度うなんでしょう。新年を迎えてお正月には「お目出度うございます」というのがごく普通の挨拶です。ただ今年にはコロナ禍の中で、新年とはいっても、お目出度うと言うには少々抵抗があるように感じますが……。

そもそもお正月に、お目出度うと挨拶するのはどういわけなのでしょう。

もともと「めでたい」と

は立派だ、賞賛に値するという意味で、慶賀を意味する言葉です。入学、卒業、結婚あるいはノーベル賞を受賞したなど、人生の節目を迎えたり特別な偉業を成し上げた場合、その人を誉め讃える意味合いを表す言葉として使われるもの、なるほどと納得できます。

ところがお正月は、特別なことを成し上げたというものではなく、誉め合い讃え合ってみても、何を誉めていて理解に苦しみます。

これが年頭の挨拶に使われるようになったのは室町期からだと言います。当初は目上の者が目下の者に対して述べた言葉でしたが、

やがて誰彼となく使われるようになったのです。

現在「明けましてお目出度う」という時には、まず今年一年も健康で幸多い年でありますようにという、謂わばお祝いの先取りと願いをこめて述べているものと理解できます。

私たちは自分一人で生きているのではなく、また一人だけで生きていけるものでもありません。人と人の

繋がり、助け合いがなければ一日だって生きることができないのです。共に支え合って一年を過ごし、また新たな年を迎えることができたということは大いなる喜びです。お互いに誉め讃え合い、また一年共に励まし合っていこう。「お目出度う」にはそんな思いが込められていのです。

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

《法華經に学ぶ現代》

浄明なる鏡に

悉く

諸の色像を

見るがごとし

『法師功德品第十九』

年が明けたら

願うのは

なにがなんでも今年こそ大いに結構

その意気込みはそんなあなたに願うのは

心明るく

身は清らかに

磨いた鏡を

見習って

素直に物事

受け止めよう

さあそれから出発だ

【1月の主な行事】

- ☆正月歳始祈禱 1日～15日
- ・分散してご参詣下さい
- ・ご折衝・ご回向等のお申し込みは、郵便・FAX・メールでも受付しております

お問合せは寺務所窓口へ

★月例祈願法要 15日(金)13時

★月例祈願法要 22日(金)15時

【2月の行事予定】

☆節分星祭祈禱 2日(火)

◎この一年の善星皆来・悪星退散を祈ってご折衝します

ご折衝申込受付中です

☆国持会々お火焚祭り

11日(祝)10時から法要

★清掃の日 15日(月)11時～12時

★月例祈願法要 15日(月)13時

★月例祈願法要 22日(月)15時

※写経会・星嶺茶論・演奏会は

社会情勢を鑑み当面休止

※出会の鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中

※登山カールド押印は中止

※昇堂時はマスク・人数制限等

感染防止にご協力下さい

※社会情勢により予定は変更

することもあります

※送迎車の運行は、休止です

但し正月三ヶ日は奉賛会員

専用シャトルバスあり

新年の抱負

箕浦 溪介

「ああでもない、これほどうかな？」私が小学生の頃から通っている習字教室で中学生の男の子がつぶやいています。どうやら学校に提出するための「書初め」をしているようです。

その様子を微笑ましく思いながら自らの学生時代のことをふと思い出します。

書初めの起源は平安時代までさかのぼります。「吉書初め」（きつしよぞめ）という行事が、新年の宮中行事として毎年行なわれていました。貴族たちが集まり、元旦を迎えて最初に汲んだ若水ですった墨を使い、恵方を向いて和歌を披露するというものです。この行事が、現在の書初めの起源とされています。

その後江戸時代に各地で寺子屋がつくられました。これはさまざまな身分の子

供たちが文字やそろばんを習うための学校のようなものです。文字を学ぶ際には当然墨と筆を使います。この中で新年に文字が上達するようにという願いを込めて、書初めが普及したと言われています。

明治になると義務教育が始まります。この時、墨で文字を書くということも大切だという考えから、書道も義務教育の一環として導入されました。こうして多くの学校では冬休みの宿題として書初めを出すようになり、学校で書初めを宿題として出すのなら、新年のイベントとしても活用できるという考えが広がり、全国各地で新年に書初めが普及したと考えられています。

大人になると、新年を迎える折に「今年も健康で過ごせますように」といった願いこそあっても、改まった決意表明はなかなかしな

ふと窓の外を見ると手摺に小鳥が二羽とまっています。私と眼が合いましたが、窓ガラスが閉まっているので知らん顔です。でも写真に撮ろうとスマホを持って構えると、恥ずかしいのか飛び立ってしまいました。長閑な一時でしたが、鳥の世界も高病原性鳥イン

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

フルエンザが流行しており、小鳥たちは何も知らないのでしょうか。今は大変なときです。コロナ禍の新年を迎えて、悪病邪鬼の鎮静と収束を願うばかりです。まずは自身が感染しないようお互いが心掛け、輝かしい年と成すことができるよう努力いたしましょう。 K.J

いように思います。今年は自分なりに新年の抱負を定めてみようか、と思っていた矢先、とあるお寺の伝道掲示板の言葉に「平坦な道を気をつけて歩く」と書かれています。成程、新年だから何か特別な思いや決意を、と意気込むことも良いけれど、普段の「当たり前」と思っていることに、十分気を付けて、大切に勤めることが大事だなぁ、と考えさせられた次第です。

ご祈祷・ご回向開始の時刻設定のおしらせ

昇堂人数調整のため開始時刻を設けております。

ご祈祷 9時半・10時半・11時
12時・13時・14時・15時

ご回向 11時半・13時半

※開始時刻の30分前までにお越し下さい。

※ご参拝の際はなるべく事前のご連絡をお願いします。

※歳始祈祷期間中は状況により変更します。

法華経茶話Ⅱ

六波羅蜜

大乘仏教における菩薩の代表的な修行の一つが六波羅蜜です。波羅蜜とは、伝統的な解釈では「彼岸に渡った」という意味があります。「彼岸」とは悟りの世界を指し、これに対して我々が住んでいる迷いの世界を「此岸」と呼びます。つまり、六波羅蜜とは、此岸から彼岸に至るための六つの徳目という意味です。

- ① 布施（物惜しみせずに施すこと）
 - ② 持戒（戒律を守ること）
 - ③ 忍辱（迫害に耐えること）
 - ④ 精進（たゆまず努力すること）
 - ⑤ 禅定（瞑想によって精神を統一すること）
 - ⑥ 般若（悟りを完成させること）
- このうち、①と③は対人関係に重きを置いていることがわかります。大乘では具体的に對他者についての実践が強調された結果、このような六波羅蜜にまとめられたといえるでしょう。